

電波資源拡大のための研究開発・平成28年度追跡評価

| 案件名 | 実施期間 | 評価会での主なコメント |
|------------------------|---------|---|
| 地上／衛星共用携帯電話システム技術の研究開発 | H20-H24 | <ul style="list-style-type: none"> ・衛星搭載が実現すれば、電波利用効率が1.2倍から1.6倍向上するとされており、電波資源拡大に有効であると言える。 ・特許出願9件、登録2件であり、応用開発実施中で実用化を2年後としている。アジアを中心とした統合MSSシステムの活用促進に寄与するなど成果は出ている。 ・地上系と衛星系とを統合的に運用活用していくことの意義が実証されたことで有益であったと考えられる。 |
| 自律的エリア設計運用技術の研究開発 | H22-H24 | <ul style="list-style-type: none"> ・フェムトセル端におけるスループット低下ユーザ数を50%程度削減できており、当初の目標を概ね満足できていると考えられる。 ・5Gとの整合性が今後の課題となるが、4Gに対しては特に問題なく、アクティブで効果があったと考える。 ・5Gサービス開始に向けた非常に意義のある成果が得られており、一部実用化もされていることから、総合的に見ても有益であったと判断する。 |
| 超高速近距離無線伝送技術等の研究開発 | H22-H24 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミリ波無線LANを実用化するための装置開発で大きな効果があり、60GHz帯というミリ波開拓に対する貢献度は大きい。 ・WiGigチップセットの展開など、普及が未だであることから、具体的応用のPRなどの普及のための努力が必要で、波及効果はまだ期待の段階にあると考える。 ・60GHz帯利用の実用化に向けた具体的技術提案として大いに有益であったと考えられ、魅力的なアプリケーションのPRが今後の普及にかかっていると思われる。 |